

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-103	中学校	技術・家庭	技術・家庭(家庭分野)	1-3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	家庭 701	新しい技術・家庭	家庭分野	自立と共生を目指して

1. 編修の基本方針

豊かな学びが未来を拓く

技術・家庭科(家庭分野)では、自立と共生をテーマに、よりよい生活を営む力を育みます。家庭分野の学習に実践的・体験的に取り組み、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することを目指して、この教科書を編修しました。教科書を手にした生徒から、「やってみたい!」「できた!」「もっとよくしたい!」、そして「教科書をいつまでも持っていたい!」、そんな声が聞こえてくることを願っています。



特色
1

「やってみたい!」
「おもしろそう!」を引き出す

**家庭分野の学習の
意義や大切さが伝わる
豊かで楽しい教科書**

導入で、なぜ家庭分野を学習するのかを知り、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら学習を深めていきます。ビジュアルで実感の伴う実物大写真や、今日的な課題に対応した魅力的で豊富な資料が、生徒の学びに向かう力、人間性を涵養します。



特色
2

「できた!」「分かった!」
が実感できる

**実践的・体験的な
学びで、生活で生きる
知識及び技能が
身に付く教科書**

基礎・基本を的確に押さえる本文ページや、確実に身に付けたい技能をまとめた「いつも確かめよう」が知識及び技能の習得を助けます。また、実践的・体験的な学びを支える豊富な実習例が、生活で生きる知識及び技能を育みます。



特色
3

「もっとよくしたい!」
「きつとうまいく!」を導く

**生活の中から課題を
見つけ、主体的に
解決していく力が
身に付く教科書**

生活の中から問題を見だし、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて課題を設定し、知識及び技能を活用して解決していく学習過程を重視しました。思考力、判断力、表現力等の育成に資する活動を繰り返すことで、よりよい生活を営む力を身に付けます。



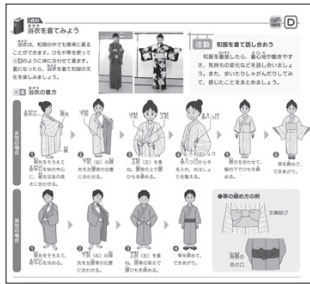
2. 対照表

教育基本法第2条第1号-第5号の趣旨を十分に反映すべく、本書を編修しました。

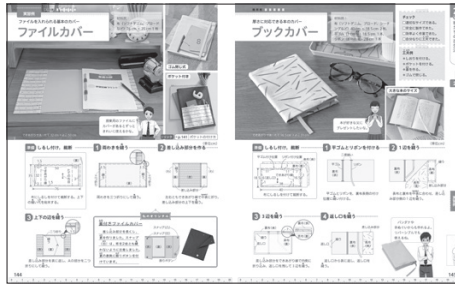
図書の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭資料	<ul style="list-style-type: none"> ● 「実習を楽しく安全に進めよう!」では、安全や衛生に配慮して実践的・体験的な学習活動に取り組んでいくことの大切さを示しました(第1号, 第3号, 第4号)。 	p.2-3
家庭分野の ガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習内容と生活が密接に関連していることを実感できる写真やイラストを豊富に掲載しました(第1号)。 ● 家族や地域の人など、自分が多くの人に支えられていることに気づき、それらの人々と関わりを持って生活することの大切さが実感できるよう工夫しました(第1号, 第3号)。 ● 家庭や学校, 地域で、男女やグループで協力して学習したり、調理や食事をしたりしている場面を、写真やイラストで示しました(第3号)。 ● 生活の営みに係る見方・考え方の例、家族・家庭の基本的な機能の例では、人々が性別や世代を超えて協力している場面や、環境に配慮している場面、地域の伝統文化に触れている場面をイラストで提示しました(第3号, 第4号, 第5号)。 ● 生活の中から課題を見つけて解決するプロセスを繰り返すことで生活をよりよくなるという、家庭分野の問題解決的な学習過程を分かりやすく示しました(第1号)。 ● 家庭や地域での生活を振り返る学習では、生徒キャラクターを用いた例を題材とすることで、各家庭や生徒のプライバシーに配慮しました(第2号)。 	p.4-17 p.4-17 p.4-17 p.4-17 p.8-9 p.14-15
1編 私たちの 食生活    	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳心を培い、健やかな身体を養うことができる学習内容などに、道徳・保健体育などの他教科との関連を示し、学習が深められるよう配慮しました(第1号)。 ● 家庭や学校, 地域で、男女やグループで協力して学習したり、調理や食事をしたりしている場面の写真やイラストを掲載しました(第3号)。 ● 食事の役割について取り上げ、自分の食生活を見直すとともに、健康に良い食習慣について考えられるよう配慮しました(第1号, 第4号)。 ● 「プロに聞け!」では、職業観, 勤労観の育成を目指して、公認スポーツ栄養士, 学校栄養職員, 栄養士, 和食料理人からのメッセージを紹介しました(第1号, 第2号, 第5号)。 ● 1日に必要な1群, 3群, 4群, 5群の食品の目安量を実物大の写真で提示し、視覚的に食品の大きさや量が実感できるように工夫しました(第1号)。 ● 食品の選択の学習では、社会や環境にも配慮して選択できるように「C消費生活・環境」との関連を図りました(第4号)。 ● 日本や地域の食文化を知って継承することを重視し、だし汁の取り方や和食, 行事食, 地域の食文化, 郷土料理などを取り上げました(第5号)。 ● 調理実習では、主題材5例(組み合わせる料理の例10例), 参考例21例と題材例を充実させるとともに、美しく豊富な写真を掲載し、実習の意欲を喚起するように工夫しました。また、主題材の調理の手順は、横の流れで、大きな写真で示すことで、調理過程の食品の変化を科学的に理解できるようにしました。(第1号, 第2号)。 ● 環境に配慮したエコッキングを3例取り上げ、材料やエネルギーを無駄なく使う工夫を示しました(第4号)。 ● 食料自給率やフード・マイレージ、食品の廃棄量などの国際的な統計資料を用いて、よりよい食生活について幅広く学習できるように工夫しました(第4号, 第5号)。 	p.22, 25, 29 など p.19, 21, 23 など p.22-25 p.29, 43, 53, 92 p.36-39 p.44-45 p.63, 90-95 など p.66-69, 72-77, 80-85 p.86-87 p.96-99
 	<p>▲ p.90-91 日本の食文化と和食の調理① ▲ p.92-93 日本の食文化と和食の調理②</p>	
2編 私たちの 衣生活 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳心を培い、多角的な視点から学習することで理解が深まる学習内容などに、道徳・美術などの他教科との関連を示し、学習が深められるよう配慮しました(第1号)。 ● 日本や地域の衣生活の文化を知って継承することを重視し、和服や地域に伝わる衣の文化の例などを取り上げました。また、「江戸時代と循環型社会」では、日本の伝統的な「物を大切に作る心」を紹介しました(第4号, 第5号)。 ● 「プロに聞け!」では、職業観, 勤労観の育成を目指して、播州織の染色職人やクリーニング師, 着物リメイクデザイナー, 衣料品メーカーの方からのメッセージを紹介しました(第1号, 第2号, 第5号)。 ● 衣服計画や、既製服の選択と購入の学習では、社会や環境にも配慮して学習できるように「C消費生活・環境」との関連を図りました。また、衣服の生産から廃棄までの流れを、「C消費生活・環境」の循環型社会の流れと統一して示しました(第4号)。 	p.110, 111 など p.112-115, 155 など p.114, 131, 151, 155 p.116-117, 154

- 家庭や学校、地域で、男女やグループで協力して学習したり生活したりしている場面を、写真やイラストで示しました(第3号)。
- 布を用いた製作では、生徒の製作意欲を引き出すような活用場面の写真を豊富に取り入れしました。また、難易度の幅を広げて、小物から簡単な衣服まで題材を充実させました。資源や環境に配慮した題材も多数取り上げています(第1号、第2号、第4号)。

p.132, 147 など
p.142-153



▲ p.115 浴衣の着方



▲ p.144-145 実習例/ファイルカバー、ブックカバー



▲ p.150-151 実習例/衣服のリフォーム・リメイク

3編

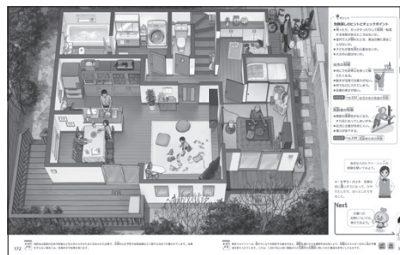
私たちの住生活

- 道徳心を培い、多角的な視点から学習することで理解が深まる学習内容などに、理科・社会(地理)などの他教科との関連を示し、学習が深められるよう配慮しました(第1号)。
- 家庭や学校、地域で、男女やグループで協力して学習したり生活したりしている場面を、写真やイラストで示しました(第3号)。
- 住生活の文化を知って継承することを重視し、日本の住まいや、伝統的な住まい方などを取り上げました(第5号)。
- 「プロに聞く!」では、職業観、勤労観の育成を目指して、建築家や危機管理アドバイザーからのメッセージを紹介しました(第1号、第2号、第5号)。
- 安全な住まい方の学習では、家族や地域との関わりの視点を盛り込みながら、家庭内事故の防ぎ方や災害への対策について学べるようにしました。また、災害への対策では、家庭・地域の実態や時間数に応じて扱えるよう資料を充実させました(第4号)。

p.164, 166 など
p.159-161, 179 など
p.164-167
p.165, 177
p.170-177



▲ p.170-171 家族の住まいを安全・安心に



▲ p.172-173 家庭内の危険な場所探し



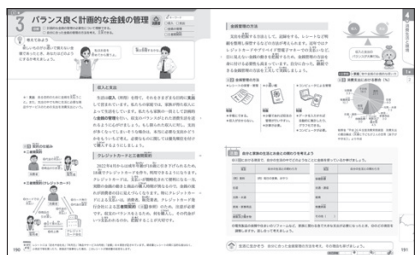
▲ p.178-179 持続可能な住生活を目指して

4編

私たちの消費生活と環境

- 道徳心を培い、多角的な視点から学習することで理解が深まる学習内容などに、社会(公民)・道徳などの他教科との関連を示し、学習が深められるよう配慮しました(第1号)。
- 編の導入では、個人の消費行動と、資源やエネルギーとの関わりを示し、広い視点を持って学習に取り組むことができるようにしました(第4号)。
- 契約や消費者トラブル、消費者の権利と責任の学習では、現在あるいは将来直面するかもしれない場面を、具体的な実習例や活動例として取り上げることで、実感を持って学習できるように工夫しました(第1号、第2号、第3号)。
- 金銭の管理の学習では、家族の生活に関わる金銭の計画的な管理について扱い、小学校家庭科と高等学校家庭科をつなぐ学習となるように工夫しました(第1号、第2号、第3号)。
- 「プロに聞く!」では、職業観、勤労観の育成を目指して、消費生活アドバイザーやエシカル消費の専門家からのメッセージを紹介しました(第1号、第2号、第4号)。
- 持続可能な社会の構築を目指して、責任を持って消費生活を送ろうとする意識が持てるような学習活動を取り上げました(第1号、第3号、第4号、第5号)。

p.184, 186 など
p.185
p.186-189, 192-201
p.190-191
p.204, 207
p.200-207



▲ p.190-191 バランス良く計画的な金銭の管理



▲ p.200-201 消費者としてできること



▲ p.206-207 持続可能な消費生活を目指して

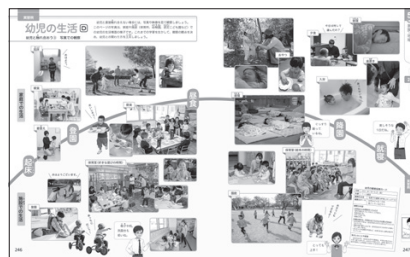
5編

私たちの成長と家族・地域



- **道徳心**を培い、多角的な視点から学習することで理解が深まる学習内容などに、道徳・保健体育などの**他教科**との関連を示し、学習が深められるよう配慮しました(第1号)。
- **家庭や学校、地域**で、**男女やグループ**で協力して学習したり生活したりしている場面を、写真やイラストで示しました(第3号)。
- **家族・家庭**についての学習は、**ガイダンス**と**関連**を持たせ、相互に学習が深められるように工夫しました。更に、**幼児**の学習後に、これからの**家族関係**をよりよくする学習を位置付けることで、「A家族・家庭生活」の学習を**系統的**に進められるようにしました(第1号、第2号、第3号)。
- 地域に伝わる文化を知って継承することを重視し、**地域の行事や取り組み例**を写真で取り上げました(第2号、第5号)。
- 「**プロに聞く!**」では、触れ合い体験を行う際の保育士からのメッセージを紹介し、**職業観、勤労観の育成**とともに、実習のスムーズな導入となるよう工夫しました(第1号、第2号、第3号)。
- 幼児の靴や箸、手袋などを**実物大の写真**で提示し、自分と比べるなどして幼児の体の大きさを視覚的に捉え、成長について実感できるように工夫しました(第1号、第4号)。
- **幼児との触れ合い体験**は、地域や学校の実態に応じて選択できるように、「施設への訪問」、「中学校への招待」、「写真での観察」の3例を取り上げました。また、幼児の様子を、見て学ぶことができるように、**写真**を豊富に掲載しました(第1号、第2号、第3号)。
- **幼児や高齢者**をはじめ、多様な人々との関わりを重視し、写真やイラストでさまざまな立場の人を取り上げ、**共生**の大切さを感じられるように工夫しました(第1号、第2号、第3号)。

p.214, 216 など
p.210, 212, 213 など
p.214-263
p.219, 260-261 など
p.239, 251
p.226
p.242-247
p.210-266



▲ p.242-243 実習例/幼児の施設へ行く ▲ p.246-247 実習例/幼児の生活 ▲ p.258-259 家族や地域の高齢者との関わり

選択生活の課題と実践



- **家庭や学校、地域**において、**男女やグループ**で協力して学習している場面を、写真やイラストで示しました(第3号)。
- 「**生活の課題と実践の進め方**」は、導入の「家庭分野のガイダンス」で示した「**問題を解決する道筋**」と統一を図りました(第1号)。
- 衣食住の生活、消費生活・環境、家族・家庭生活などに関する内容を**複合的**に関連させて扱えるよう、実践例を充実させました(第1号)。
- 実践例では、まとめ方の例として、**レポート**や**プレゼンテーションソフトウェア**、**ポスター**、**新聞**などの具体的な表現方法を豊富に示しました(第1号、第2号、第3号、第4号、第5号)。

p.267, 268, 269 など
p.268-269 (p.8-9)
p.272-277
p.272-277

巻末資料



- 「**学んだことを社会に生かす**」には、各内容で学習したことを生かして働く人の姿を紹介しました。各編の「**プロに聞く!**」のまとめとして機能させることで、生徒の**職業観、勤労観の育成**を目指しました(第2号)。
- 「**ユニバーサルデザイン**」では、**みんなが暮らしやすい社会の実現**を目指して、生活の中のユニバーサルデザインを紹介しました(第1号、第3号)。
- 「**言葉のページ**」では、家庭分野の学習に関わる独特な言い回しや名称を解説しました(第1号、第5号)。
- 「**深まる、広がる家庭分野の学習**」では、**他教科等**との関連を示し、多角的な視点から学習することで理解が深められるよう配慮しました(第1号)。
- 「**持続可能な社会を目指して**」では、自分たちの生活と、**自然環境**や**国際社会**等との関わりについて考えさせる**SDGs**を示し、持続可能な社会を目指した学習が、これからの生活の中でより深められるように工夫しました。(第1号、第2号、第3号、第4号、第5号)。
- 巻末付録に、家庭分野の学習に関連した災害への備えなどをまとめた「**防災・減災手帳**」を新設しました。切り離して綴じることで、手帳として長く活用できます。また、幼児の特徴を知る学習において、生徒がより実感を持って学習できるように、「**子どもの視界体験眼鏡**」を付録に新設しました(第1号、第3号、第4号)。

p.282-283
p.284-285
p.286-287

口絵④
口絵⑤-⑥

巻末付録

▶ 巻末付録
防災・減災手帳



▲ p.282-283 学んだことを社会に生かす ▲ 口絵⑤-⑥ 持続可能な社会を目指して ▲ 子どもの視界体験眼鏡を使う中学生

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

① 特別支援教育への配慮

- ・特別支援教育の観点から内容及びデザインについて検討するとともに、専門家による校閲を受けました。全ての生徒にとって認識がしやすいように、文字の書体(UD書体)、図版やイラストのレイアウトなどを工夫しました。
- ・ふり仮名は、特別支援教育で推奨されている丸ゴシック体を用いました。また、多様な生徒の学びを保障するため、教育漢字以外の漢字には全てふり仮名を付しました。
- ・キャラクターのせりふは、読みやすさに配慮して文節改行にしました。

② ユニバーサルデザインへの取り組み

- ・カラーバリアフリーの観点から、配色とデザインについて検討し、色覚に関する専門家の校閲を受けました。色覚特性に配慮し、色情報以外の模様や記号でも識別ができるようにしました。

③ 人権上の配慮

- ・写真やイラストに登場する男女の比率や役割に偏りがないように配慮しました。
- ・さまざまな家族や、地域に住むさまざまな人々を取り上げました。また、人と関わる際に配慮したい内容を「マナー」マークで示しました。

④ 発展的な学習

- ・必要に応じて幅広く学習できる発展的な内容には、「発展」マークを付けて示しました。

⑤ 造本上の工夫

- ・環境に配慮した再生紙・植物油インキを用いました。長期の使用に耐えるよう、製本は堅牢です。
- ・本文用紙は、食品の写真などが鮮やかに、人物の写真などがあたたかみを帯びるような色味で表現でき、かつ裏うつりにくく軽い紙を使用しました。

2 今日的な課題への取り組み

① 現代的な諸課題への取り組み

- ・実習などを安全に行ううえで大切な内容には、「安全」「衛生」などのマークを付けて、注意を喚起しました。また、実習上のこつなどには「ポイント」マークを付けました。
- ・「環境」「消費者」「伝統文化」「防災」「情報モラル」といった現代的な諸課題を意識しながら学習が進められるように、右記のマークを設けました。

② 道徳教育との関連

- ・伝統と文化の尊重、家庭生活の充実、個性や立場の尊重など、随所で道徳教育との関連を図りました。

③ 小学校、高等学校との学習の系統性

- ・小学校の学習内容と関連する箇所には、「小学校」マークを付けました。
- ・小学校家庭科、高等学校家庭科との系統性や発達段階を踏まえて、衣食住の生活などの身近な内容を前半に、消費生活と環境の内容や、家族・幼児や高齢者などに関する内容を後半に位置付けました。
- ・「家庭分野のガイダンス」では小学校家庭科の学習内容やこれまでの自分の生活を振り返り、「家庭分野の学習を終えて」では、生涯の生活を描いたイラストを設けてこれからの自分について見つめる活動を取り入れています。

3 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

① 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- ・各内容において育成したい資質・能力を明確にするため、節ごとの学習目標を示しました。
- ・「実習例」は、短時間で取り組めるものから本格的に取り組めるものまで幅広く取り揃えました。授業の状況に合わせて選択したり、生活の中で実践したりでき、また、生徒が自ら問題を発見するためのヒントにもつながります。

② カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- ・「リンク」「他教科」「小学校」マークを用いて、分野間や教科間、校種間の連携を高めます。また、教科関連を示すDマークは、他教科の関連する内容の教科書紙面を見ることができ、学習の理解を深めることができます。

③ 教育のICT化への取り組み

- ・生徒の興味・関心を高める豊富なDマークコンテンツを用意しました。動画やシミュレーションなどを用いることで、効果的に学習を進めることができます(※デジタルコンテンツを使用する際の通信費は自己負担となります)。
- ・制度化された学習者用デジタル教科書を発行する予定です。

→ 他教科 → 道徳 望ましい生活習慣

D 保健体育
健康的な生活と疾病の予防



編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-103	中学校	技術・家庭	技術・家庭(家庭分野)	1-3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	家庭 701	新しい技術・家庭	家庭分野	自立と共生を目指して

1. 編修上特に意を用いた点や特色



学習を案内する
ギカルン



見方・考え方を意識させる
ミカタン

特色
1

「やってみたい!」「おもしろそう!」を引き出す

家庭分野の学習の意義や大切さが伝わる豊かで楽しい教科書

① 学習を見通すガイダンス—自立と共生—

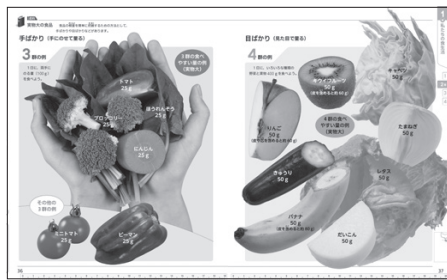
- ・小学校家庭科の学習を振り返るとともに、中学校3年間の学習の見直しを持たせることをねらいとして、教科書の冒頭に「**家庭分野のガイダンス**」を設けました(p.4-17)。
- ・ガイダンスの扉ページに家庭分野の**目標**を示し、家庭分野を学習する意義や大切さが捉えられるようにしました(p.4-5)。
- ・自分と家族の、家庭や地域での**1日の生活**の振り返りを充実させ、「A家族・家庭生活」の学習とのつながりを持たせました(p.14-15)。
- ・**家族・家庭の基本的な機能**の例を、イラストを用いて分かりやすく解説しました。また、**生活の営みに係る見方・考え方**や各学習内容と関連があることを示しました(p.8-9, 16-17)。



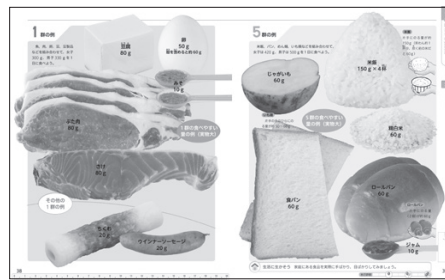
▲p.4-5 家庭分野のガイダンス

② 豊富な資料, 実物大写真

- ・1日に必要な1群, 3群, 4群, 5群の食品の概量を、「**手ばかり**」「**目ばかり**」の手法で掲載しました。各食品の目安量に相当する**実物大写真**を示しました(p.36-39)。
- ・靴や箸など、**幼児の使う物を実物大の写真**で取り上げました。幼児の体の大きさを視覚的に捉え、自分と比べるなどして成長を感じたり、幼児との関わり方の工夫につなげたりすることができます(p.226)。
- ・巻末の付録に「**子どもの視界体験眼鏡**」を新設しました。切り取って組み立てると、子どもの視界を体験することができます。



▲p.36-37 実物大の3群, 4群の食品



▲p.38-39 実物大の1群, 5群の食品



▲p.226 実物大の幼児の物

③ 今日的な課題への対応

● 家庭分野の防災教育



- ・「防災リュック」(p.146), 「災害への対策」(p.174-177), 「『助けられる人』から『助ける人』へ」(p.260)など、災害への備えに関する学習には「**防災マーク**」を付けて、生徒の意識を高める工夫をしました。
- ・巻末付録に「**防災・減災手帳**」を設け、家庭分野の学習で身に付けたい災害への備えについてまとめました。切り離して綴じることで、手帳として長く活用することができます。

● 持続可能な社会の構築に向けて



- ・環境の視点と生活場面とを結び付けて考えられるように、「**環境マーク**」を付けました。(p.52-53, 132, 150, 178, 198, 202, 219, 237など)。
- ・1-4編の編末は、環境や共生に関わる持続可能な社会の構築に向けた内容で統一しました(p.96-97, 154-155, 178-179, 206-207)。
- ・**SDGs**の視点からこれからの学習や実践を深められるよう、最終ページに「**持続可能な社会を目指して**」(口絵⑤-⑥)を設けました。

● 伝統文化の継承と創造



・「和食」(p.92)、「日本の食文化と和食の調理」(p.90-95)、「日本の衣文化」(p.112-115)、「住まいと気候風土の関わり」(p.164-167)など、日本の伝統文化の良さや大切さが実感できる内容を多く取り上げ、「**伝統文化マーク**」を付けて、生徒の意識を高める工夫をしました。

● 消費者教育の重視



・**消費者教育**を重視し、4編「私たちの消費生活と環境」の内容を充実しました。更に、日常生活と結び付けて考えられる場面には「**消費者マーク**」を付けて強調しました(p.44, 116, 186, 237など)。

● 食育の要として

・**食育**に果たす家庭分野の役割の重要性に鑑み、食についての内容を**系統的に学習**できるように配慮しました。1編「私たちの食生活」では生活リズムと食事の役割を丁寧に扱うとともに(p.22-25)、食品や料理の写真資料を豊富に掲載しました(p.33-41など)。

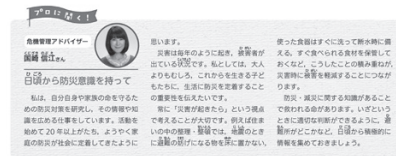
● 安全・衛生への配慮



・巻頭に「**実習を楽しく安全に進めよう!**」を設け、実習の注意事項をまとめて示しました(p.2-3)。また、調理や布を用いた製作、幼児との触れ合い体験実習などにおける安全や衛生のポイントには「**安全マーク**」や「**衛生マーク**」を付けて、生徒への注意喚起をしました(p.54-55, 130, 137, 152, 240-241など)。

● キャリア教育につながる「プロに聞く!」

・将来を見据えた**職業観**、**勤労観**を育成するため、「**プロに聞く!**」を設けました。栄養士、建築家、保育士の方などからの、生徒へのメッセージを紹介しました(p.29, 165, 204, 239など)。
・「プロに聞く!」の総集編として、巻末に「**学んだことを社会に生かす**」を設けました。(p.282-283)。



◀ p.177 プロに聞く!

④ 縦と横のつながりを強化—カリキュラム・マネジメント、小学校と高等学校家庭科との連携—

- ・カリキュラム・マネジメントの参考となるよう、**他教科**と関連する内容を「**他教科マーク**」で示しました。学習を深め、教科横断的な学力の定着を図ります(p.29, 111, 164, 196, 253など)。特に、**道徳**との関連を充実させました(p.22, 110, 209, 214など)。
- ・小学校家庭科で学習した内容をガイダンスや編の導入で示すとともに、それぞれの関連箇所には「**小学校マーク**」を付けました(p.10-11, 26, 108, 168, 186, 217など)。
- ・小学校と高等学校家庭科との**系統性**や**生徒の発達段階**を意識して、衣食住の身近な内容を前半に、消費生活と環境、家族、幼児や高齢者に関する内容を後半に位置付けました。また、「家庭分野の学習を終えて」では、生涯の生活を描いたイラストを設け、これからの自分について見つめる活動を取り入れました(p.278-279)。

● 他教科

● 小学校

⑤ 生活の営みに係る見方・考え方

・生活の営みに係る見方・考え方である「**協力・協働**」「**健康・快適・安全**」「**生活文化の継承・創造**」「**持続可能な社会の構築**」などをマークで表現しました(p.8-9など)。また、キャラクター「**ミカタン**」のせりふが、生徒の見方・考え方への意識を高めます。家庭分野の学習に関わる内容を、多角的な視点から考えたり、判断して決定したりして、生徒が楽しみながら問題解決に取り組めるように工夫しました。



見方・考え方を働かせて、学習を深めよう。

ミカタン



特色 2

「できた!」「分かった!」が実感できる

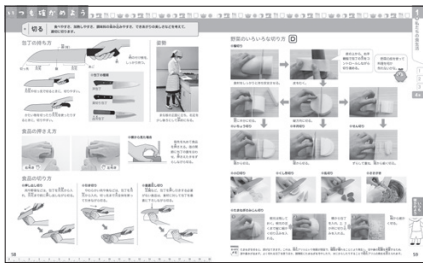
実践的・体験的な学びで、生活で生きる知識及び技能が身に付く教科書

① 教科書の構成

- ・年間指導計画の全国的な傾向や生徒の発達段階、小学校と高等学校家庭科との系統性を踏まえ、「A(1)ア ガイダンス」「B 食生活」「B 衣生活」「B 住生活」「C 消費生活・環境」「A 家族・家庭生活」「選択 生活の課題と実践」の順に構成しました。教科書全体で**自立と共生の流れ**を示しました。
- ・ガイダンスに、5つの学習内容とのつながりを持たせる発問を随所に設けることで、どの内容からでも扱いやすくなりました。
- ・各編や基本ページの構成、資料や実習例の位置付け、マークの説明など、**教科書の使い方のページ**を設け、教科書がより効果的に使えるようにしました(口絵㊦-p.1)。
- ・各編扉では、ガイダンスで学習した「**家族・家庭の基本的な機能の例**」や「**生活の営みに係る見方・考え方の例**」を示し、学習の関連を図っています(p.20, 106, 158, 184, 212)。

② いつも確かめよう

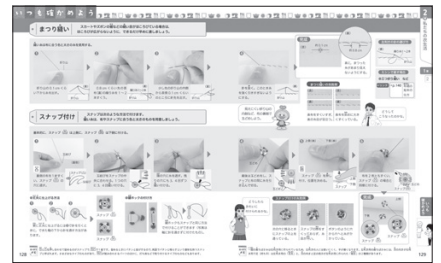
- ・実習や生活での実践に必要な、必ず身に付けさせたい基礎的な技能を「**いつも確かめよう**」としてまとめました(p.54-63, 124-131, 136-141)。基礎的・基本的な技能がまとめて掲載されているので、いつでも確認することができます。**写真**や**イラスト**を用いて、分かりやすい紙面構成にしました。
- ・具体的な調理や製作を通して技能が習得できるよう、簡単に取り組みやすい実習例を掲載しました(p.63, 148-149)。



▲ p.58-59 いつも確かめよう(調理/切る)



▲ p.60-61 いつも確かめよう(調理/加熱する)



▲ p.128-129 いつも確かめよう(手入れ)

③ 調理実習

- 調理実習例は、主題材の調理の手順を**横の流れ**でレイアウトしました(p.66-67, 72-75, 80-83)。更に、調理による食品の変化が**視覚的、科学的**に捉えられるよう、**大きな写真**で示しました。また、組み合わせる料理の例も同じページの下部に提示したので、**献立調理から単品調理まで**実習時間に応じて活用することができます。
- 主題材となる実習例に加えて参考例を設け、**題材数を充実**させました。学校の実態に応じて選択したり、生活の中で実践したりできます(p.66-69, 72-77, 80-85)。また、野菜、肉、魚それぞれの素材の特徴や調理の解説を、見開きで丁寧に掲載しました(p.64-65, 70-71, 78-79)。
- 多様な調理実習に取り組めるよう、**エコクッキング**や**朝食作り**、**弁当作り**、**幼児のおやつ**などを掲載しました(p.86-89, 230-231)。

④ 布を用いた製作実習

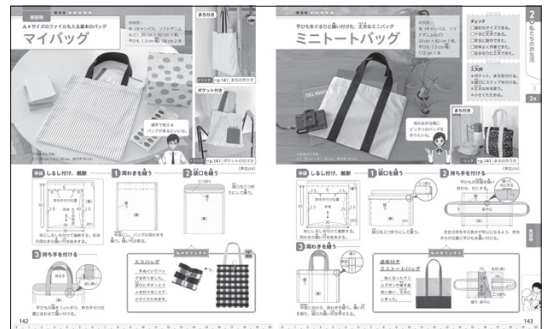
- 生徒の「作ってみたい!」「使ってみよう!」という意欲を引き出すために、製作物を生活の中で活用している**写真**を豊富に掲載しました。(p.142-147)。
- 学校の実態に応じて選択したり、生活の中で実践したりできるよう、**難易度の幅**を広げて、**題材数を充実**させました(p.142-153)。
- 資源や環境に配慮**した製作を行えるよう、**リフォーム・リメイク**の実習例を新設しました(p.150-151)。そのほかにも、製作過程での環境への配慮について随所に掲載したり、余り布を用いた製作例を取り上げたりしました。
- 幼児のおもちゃや小物**の製作例を取り上げ、幼児の学習との関連を取りました(p.152-153)。

⑤ 幼児との触れ合い体験

- 学校の実態に応じて選択できるように、「施設への訪問」「中学校への招待」「写真での観察」の3例を取り上げました(p.242-247)。
- 施設への訪問と中学校への招待は、**体験の流れ**を統一し、写真を中心に示すことで、短時間で効果的に学習が行えるよう工夫しました。
- 写真での観察は、**家庭や施設での1日の生活の流れ**を、時間軸に沿って写真で示しました。触れ合い体験を行えない場合や触れ合い体験の前後の学習で活用できます(p.246-247)。



▲ p.74-75 実習例/ハンバーグ



▲ p.142-143 実習例/マイバッグ、ミニトートバッグ



▲ p.244-245 実習例/中学校へようこそ

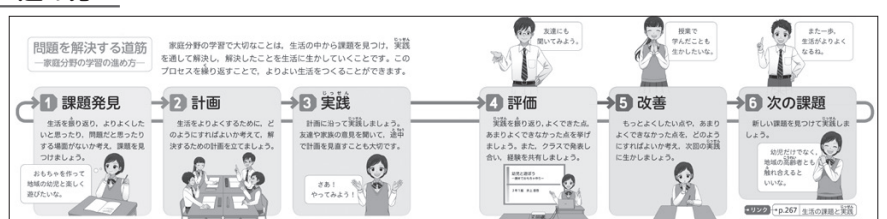
3 特色

「もっとよくしたい!」「きつとうまくいく!」を導く

生活の中から課題を見つけ、主体的に解決していく力が身に付く教科書

① 問題を解決する道筋—家庭分野の学習の進め方—

- 家庭分野の**問題解決的な学習**を重視し、家庭分野の学習の流れを、見開きで分かりやすく示しました。**生活に始まり、生活に返す**学習の流れを明確に示しました(p.8-9)。



▲ p.8-9 問題を解決する道筋

② 工夫を広げる—私のオリジナル—

・調理実習や布を用いた製作実習に、「私のオリジナル」を掲載しました(p.67, 73, 142, 143など)。題材別の工夫例が、生徒の工夫のヒントとなります。



▲ p.75 私のオリジナル

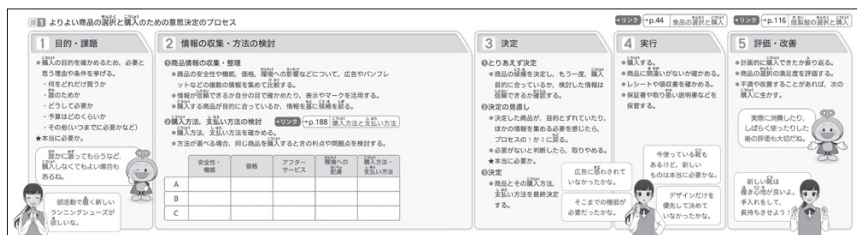
▲ p.146 私のオリジナル

③ 選択 生活の課題と実践

・「生活の課題と実践」では、見方・考え方を働かせて生活の中から問題を見つけて課題を設定し、その課題を解決するために計画、実践、評価、改善する学習過程を分かりやすく示しました(p.268-269)。更に、課題の決め方やまとめと発表の仕方、実践例を充実させました(p.270-277)。また、各編の学習のまとめには、課題発見のヒントとなる設問を新設しました(p.101など)。生活の課題と実践は、学校の実態に応じて選択して履修できるよう、巻末にまとめて掲載しました。

④ 意思決定のプロセス

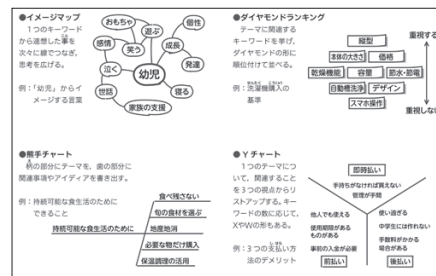
・自信を持って物事を判断し、決定できるようになることを重視し、食生活、衣生活などでの消費行動を例にして、意思決定のプロセスを丁寧に示しました(p.44-45, 116-117, 196-197)。



▲ p.196-197 意思決定のプロセス

⑤ 思考ツールの活用—「主体的・対話的で深い学び」の実現—

・物事を考えたり、意見を整理したりする際に有効な思考ツールを、活動例の中で随所に取り入れました(p.70, 116, 117, 163, 191, 248など)。生活の課題と実践には、活用できる思考ツールの例を挙げました(p.271)。主体的・対話的で深い学びを通して、問題を解決する能力を高めます。



▲ p.271 思考ツールの例

観点別特色の一覧

<p>組織・配列・分量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの編の各章、各節の内容は、学習指導要領の内容を踏まえて、学習が系統的に進められるよう、基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで丁寧に記述しています。 ●各内容の分量は、時数、学期、学年配分などに配慮し、偏りなく扱えるようにしています。
<p>学習方法・授業展開への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●巻頭に目次を配置し、これからの学習内容が見渡せるようにしています(口絵①-②)。 ●各編の導入は見開きで構成し、生徒の興味・関心を高める写真やイラストなどを用いるとともに、それらが生徒の主体的な学習を促し、問題解決型学習へと結び付くように配慮しています。 ●幅広い難易度の実習題材を豊富に掲載し、学校の実態や生徒の技能に応じて選ぶことができます。 ●当該の学習内容と関連するページに「リンクマーク」を示しています。家庭分野と技術分野を総合的に学習できるように、技術分野に関連する学習内容もリンクマークで示しています(p.46, 188など)。 ●生徒が学習する際に参考にできるように、レポート例などを充実させています(p.30, 111, 176, 249など)。
<p>資質・能力の育成</p>	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本文中の重要語句はゴシック体で強調し、基礎的・基本的な知識を確実に習得できるようにしています。 ●本文の内容を裏付ける実験などの資料を取り上げ、科学的な理論に基づく知識が習得できるようにしています(p.54, 65, 123, 124, 164, 169, 222など)。 ●図表やレポート例、ロールプレイングなどを充実させました。巻末の「言葉のページ」では、家庭分野の学習に関する独特な言い回しや名称を解説しています。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本ページの「まとめの活動」や各編末の「学習のまとめ」には、「生活に生かそう」を設け、生徒が学習したことを自分自身の生活に生かせるように工夫しています(p.25, 115, 167, 171, 195, 249など)。 ●随所に「活動例」を設けるとともに、思考ツールを用いて学習できるように例示しています(p.62, 117, 163など)。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●豊富な写真やイラスト、漫画やパラパラ漫画を用いて、生徒が興味・関心を持って学習を深められるようにしています(p.4-5, 14-15, 201, 256, 口絵⑤-⑥)。 ●「発展的な学習内容」や「せいかつメモ」などを設け、興味・関心に応じて知識の幅を広げることができます。
<p>学習評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各節の冒頭に観点別評価につなげる「目標」を示しています。 ●各節末には自己評価の記入欄を設けています。 ●各編末に「学習のまとめ」を見開きで設け、学習を振り返って自己評価し、復習し、生活に生かす方法を考えることができます(p.100-101, 156-157, 180-181, 208-209, 264-265)。

教育のICT化への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● Dマークを示した教材では、学習に関連するデジタルコンテンツ(動画、シミュレーションなどの資料)を用意しています。教科関連を示すDマークは、他教科の関連する内容の教科書紙面を見ることができます。 ● 制度化された学習者用デジタル教科書の発行を予定しています。
人権、福祉への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的なルールやマナーなどに関する内容には「マナーマーク」を付して注意を喚起し、他者を思いやり、人権を尊重する態度を身に付けることができますようにしています(p.229, 241など)。 ● 幼児から高齢者まで世代の異なる人、障がいのある人やない人、さまざまな国籍の人、異なる文化や言語を持つ人などが登場し、周囲の人との共生の大切さを自覚できるようにしています(p.7, 218, 260-261など)。 ● 男女がともに子育てに関わっている姿を写真やイラストで示したり、男女共同参画社会基本法を取り上げたりしています(p.16-17, 246-247, 283など)。イラストや写真の男女の服装や発言内容が、性別による役割固定につながらないように配慮しています。 ● 教科書全編を通して、各家庭や生徒のプライバシーに配慮しています。特に家族の内容では、さまざまな家族形態があることを示し、どの家族もかけがえのない家族であることが指導しやすいように配慮し、生徒の自己肯定感を高めることができますようにしています(p.214-215など)。
特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● ふり仮名は、特別支援教育で推奨されている丸ゴシック体を用いています。 ● 基本ページでは、「目標」「始めの活動」「まとめの活動」などを全見開きの同じ位置に配置しています。 ● 実習の手順などを横の流れで統一し、見やすく理解しやすいようにしています。 ● 生徒の巧緻性に配慮し、作業する手や姿勢の写真などを豊富に掲載するとともに、包丁や手縫いの内容では、左利きの例も取り上げています(p.58, 129)。 ● キャラクターのせりふは全て文節改行にし、読みやすさに配慮しています。 ● 特別支援教育の観点から、内容及びデザインについて検討し、専門家による校閲を受けています。
ユニバーサルデザインへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 書体はUDフォント(ユニバーサルデザイン書体)を使用し、可読性を高めています。 ● カラーバリアフリーの観点から、配色とデザインについて検討し、色覚に関する専門家の校閲を受けています。
文字・印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境に配慮した再生紙・植物油インキを用いています。 ● 本文用紙の軽量化に努め、長期の使用に耐えるよう、製本は堅牢です。

2. 対照表

図書構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
家庭分野のガイダンス		A(1)ア	p.4-17	1-3
自ら生活をつくる	1編 私たちの食生活		p.20-105	
	1章 食事の役割と中学生の栄養の特徴	B(1)ア(ア)(イ)イ	p.22-29	3-5
	2章 中学生に必要な栄養を満たす食事	B(2)ア(ア)(イ)イ	p.30-43	3-5
	3章 調理のための食品の選択と購入	B(3)ア(ア)イ/C(1)ア(イ)	p.44-51	3-5
	4章 日常食の調理と地域の食文化	B(3)ア(イ)(ウ)(I)/C(2)アイ	p.52-99	10-14
	2編 私たちの衣生活		p.106-157	
	1章 衣服の選択と手入れ	B(4)ア(ア)(イ)イ/C(1)ア(イ)	p.108-131	7-9
	2章 生活を豊かにするために	B(5)アイ/C(2)アイ	p.132-155	6-12
	3編 私たちの住生活		p.158-181	
	1章 住まいの役割と安全な住まい方	B(6)ア(ア)(イ)イ/C(2)アイ	p.160-179	7-9
決して生活者として意思を決定する	4編 私たちの消費生活と環境		p.184-209	
	1章 私たちの消費生活	C(1)ア(ア)(イ)イ/C(2)アイ	p.186-199	5-7
	2章 責任ある消費者になるために	C(2)アイ	p.200-207	3-5
生とも生きるに	5編 私たちの成長と家族・地域		p.212-266	
	1章 家族・家庭と地域	A(1)ア	p.214-219	1-3
	2章 幼児の生活と家族	A(2)ア(ア)(イ)イ/C(1)ア(イ)	p.220-255	8-13
	3章 これからの家族と地域	A(3)ア(ア)(イ)イ	p.256-263	2-4
選択	生活の課題と実践	A(4)ア/B(7)ア/C(3)ア	p.267-277	3-7

※配当授業時数は、各内容を扱う際の最小時数を下限、最大時数を上限として示しています。

※教科の授業時数87.5時間(175時間を技術分野、家庭分野と均等に割り振ることを想定)と、配当授業時数の合計の差は、編の導入や学習のまとめ、資料などの読み物ページなどの時間にあててを想定しています。

編修趣意書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-103	中学校	技術・家庭	技術・家庭(家庭分野)	1-3
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	家庭 701	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項	ページ数
115	世界の民族衣装	2	内容 B(4) ア (ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。	0.25
167	世界のいろいろな住まい	2	内容 B(6) ア (ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。	0.25
209	フェアトレード	2	内容 C(1) ア (ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 内容 C(2) ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。	0.5
245	赤ちゃんが学校に	2	内容 A(2) ア (イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。 内容 A(2) イ 幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。	0.25
252 -253	子育てをめぐる現状 子どもを守る条約や 法律 ユニセフの活動	2	内容 A(1) ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。 内容 A(2) ア (ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。	2
254 -255	赤ちゃん一人間の 育ちの始まり	2	内容 A(1) ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。 内容 A(2) ア (ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。	2
284 -285	ユニバーサル デザイン	2	内容 A(3) イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。 内容 B(6) ア (イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。	2

合計 7.25 ページ

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容(隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む)とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容